

EUSA-JAPAN Newsletter

No.22 Feb. 2009

日本EU学会

◇理事長メッセージV

庄司克宏（慶應義塾大学、ジャン・モネ・チ
ェア）



私の理事長メッセージは今回のVで最後となります。理事長に就任してから早くも2年が経過いたしました。無事務められたのも会員の皆様のおかげです。

秋の研究大会で理事選挙の結果が判明し、今年4月より新理事長の下で新理事会が発足します。理事長の選出は政治社会、経済、法律3部門の輪番制をとっているため、次の理事長は政治分野の理事から選出されます。これまでは当該分野の理事の協議による推薦と理事会による承認という方法をとってきました。推薦と承認のいずれもコンセンサスによります。しかし、理事が選挙で選出されることとなったため、理事長の選出においても理事会の承認を選挙で行うこととなりました。ただし、3分野輪番制はこれまでEU学会が発展してきた制度的仕組みであると考え、今後も維持されます。

今秋、静岡県立大学で開催された研究大会では、「公約」どおり、「分科会をいわば「道場」のような形で一層充実させる」ため、分科会の報告時間（報告30分、質疑20分）を全体セッ

ションと同じにしました。分科会を「ガチンコ勝負」の場として活用し、会員の研究の質を一層向上させることになればと願っております。もちろん、会員同士の友情は不変です。

2009年度の研究大会は30周年記念大会です。同志社大学で11月14-15日(両日とも午前午後)に開催予定です。共通論題は「ユーロ10年と金融危機」です。経済、政治分野の会員だけでなく、法律分野の会員のみなさんも資本の自由移動や金融監督などのテーマでぜひ研究報告いただければ幸いです。また、次回は分科会についても共通テーマを設定します。分科会Aは「EUの理念と民主的正当(統)性」、分科会Bは「冷戦終焉20年と欧州統合の現段階」で、分科会Cは自由論題となります。

最後に私事で恐縮ですが、小生の出身地は和歌山県新宮市で、高校卒業までそこで育ちました。両親も同地周辺の出身で、小生はいわば「熊野原人」です(娘の名前も「くまの」といいます。)その新宮市に浮島の森という天然記念物があり

目次

理事長メッセージV.....	庄司 克宏
日本EU学会理事の選挙とその結果について	田中 素香
事務局からのお知らせ	
新入会員一覧	
次期(2009年)研究大会開催について	
広報委員会から	
ニューズレター原稿の募集	

ます(「日本風景街道 熊野」ホームページ下記写真参照)。大きな池に島が浮かんでいるように見え、風や水流で動くそうです。しかし実際には、「浮いている」わけではなく、柔らかい地層でつながっているそうです。時とともに激しく変化する EU も「根っこ」には変わらないものがあることを説明するため、講演などの機会にこの話をよくします。新宮を訪れる機会がもしありましたら、ぜひ一見下さい。

日本 EU 学会ならびに会員の一人一人の皆様
の益々のご発展を祈念申し上げます。2年間どう
もありがとうございました。



出所：「日本風景街道 熊野」ホームページ
<http://www.kumano-yorimichi.com/area5/fukijimanomori.html>

日本風景街道熊野ホームページ作成委員会事務局(和歌山県土整備部道路局道路保全課：田尻氏)より掲載可の確認済み(2009年1月28日)。

追伸

双方向のコミュニケーションをめざして、1週間に1度、ぜひ EU 学会ウェブサイト <http://wwwsoc.nii.ac.jp/eusa-japan/> にアクセス下さい。メール等による直接のインプットも歓迎いたします。

◇日本 EU 学会理事の選挙とその結果について

田中 素香 [選挙管理委員長]

2008年11月静岡県立大学で開催された第29回学会大会の第一日目に、理事選挙の開票作業が行われ、併せて午後3時まで当日投票(直接投票)も実施されました。

選挙管理委員の須網理事、大隈理事、選挙立会人の星野理事、岩田理事とともに、開票作業手伝いの静岡県立大学の学生10人ほどを指揮・監督する形で開票作業が進み、午後5時過ぎからデータの集約・整理が行われました。郵送による投票、当日投票、そして開票作業ともなんら問題なく規程に沿って適正に行われたことをここに報告します。

本学会で理事選挙は初めてではなく、1990年代初めに短期間実施されました。しかし、会員総数に占める投票者の割合があまりに低いため、再び理事会による推薦方式に戻りました(今回の当日投票はこうした経過を考慮したものです)。その後10年ほど経ち、70歳定年制の下で理事の顔ぶれが長期固定化する傾向が出てきました。他のほとんどの学会では、理事は選挙によって定期的に会員のチェックを受けています。フレッシュな顔ぶれを理事に迎え入れることも選挙制の方が容易でしょう。理事長に就任したとき私は、会員が500人を超えた本学会も「民主的で前向きの学会運営」という当たり前の制度を導入する必要があると感じたのでした。

その後の経過は会員の皆様ご存じの通りです。理事会には賛否両論がありましたから、アンケートで会員のご意見を聞き、支持多数を得て理事会・総会で承認を受け、庄司理事長に引き継がれて制度化が進み、足かけ4年をかけて第1回選挙に到達したのでした。

投票結果は大会第2日目の会員総会で説明しました。138名の会員が投票し(郵送等投票114名および当日投票24名)、約28%というかなり高い投票率を達成できました。選出された新

理事（候補者）のかなり多くは現理事でしたから、会員の皆様から、基本的に現理事会支持のサインが発せられたと見ることもできましょう。現理事として、よかったと思いました。他方で、3分野ともに若干名が新しい顔ぶれとなっており、フレッシュな刺激の方も期待できそうです。新理事候補者から就任の承認を得る必要があり、繰り上げ当選のケースもありえます。新理事会が3月に招集され、スタートは4月になります。

今回の選挙の反省点として、理事当選のための最低得票数の問題、開票の日程や被選挙人名簿の改善、その他若干の技術的な事柄が残りました。これらについては、後日理事会で対処・改善していくこととなります。

最後に、会員の皆様の新理事会へのご支援・ご意見・ご鞭撻をお願い致します。

事務局からのお知らせ

◇ 新入会員一覧

2008年11月の理事会で承認された方々

* 氏名・所属・専攻

1. 岩野 智(P) 早稲田大学大学院政治学研究科博士課程(在学)
2. 芳賀 雅顕(L) 明治大学
3. 渡辺 紀子(P) Bosch 株式会社
4. Witoslawski Lucas (E) 横浜国立大学環境情報学府博士課程(在学)
5. 中原 章雄(L) 東京簡易裁判所民事調停委員
6. 増沢 陽子(L) 名古屋大学
7. 木澤 愛子(L) 東京大学法科大学院
8. 金子 太地(P) 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程(在学)
9. 清本 修身(P) 立命館大学
10. 関根 豪政(SC) 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程(在学)
11. 志岐真弓(SC) EUIJ 東京コンソーシアム事務局長

維持会員

1. YKK 株式会社

◇ 次期（2009）研究大会開催について

- (1) 開催校：同志社大学
- (2) 日時：2009年11月14-15日
- (3) 共通論題：ユーロ十年と金融危機
分科会 A：EU の理念と民主的正当性
分科会 B：冷戦終焉20年と欧州統合の現段階
分科会 C：自由論題

注：次回大会は、30周年の記念大会になりますので、特別に分会会のテーマもあらかじめ設定させていただきます。

広報委員会から

◇ ニュースレター原稿の募集

広報委員会では、会員の皆様方からのご寄稿を幅広くお待ちしております。最近のご研究動向、在外研究や出張の成果報告、新任校の様子、日本のEU研究への提言、日本EU学会への要望など、内容は問いません。学会の財政難の折、原稿料をお支払いすることは出来ませんが、積極的にニュースレターを活用していただきたいと思っております。尚、ご寄稿いただいた原稿のニュースレターへの掲載については広報委員会で検討させていただきます。ご要望に添えない場合はご容赦下さい。

分量：横書き 1200 字程度。

期限：随時受け付けますが、ニュースレターの夏・冬年 2 回発行にあわせ、6 月末日と 11 月末日がそれぞれ締め切り日となります。

提出先：広報委員会(松浦)の住所または下記メール・アドレスまで添付ファイル(ワードか一太郎)にてお送り下さい。

〒790-8578 松山市文京町4-2

松山大学 松浦一悦 宛

Tel:089-925-7111

Fax:089-922-5415

E-mail:matsuura@cc.matsuyama-u.ac.jp

(編集後記)

松浦一悦 (松山大学)

今回は、昨年の理事選挙の選挙管理委員長を務められた田中素香理事に、選挙結果について報告をして頂いた。田中理事が言われるように、フレッシュなメンバーを加えた新体制で、学会の発展のため前進できることを期待したい。肝心なことは、会員が研究成果を公平に発表でき

る機会を保証し、自由で活発な議論を通じて EU 研究を深める環境を整えることである。

ところで、今年の全国大会は 30 周年を記念して同志社大学で開催される。共通テーマは昨年から深刻さを増す EU の金融危機とユーロの評価である。2008 年 9 月のアメリカ発世界金融危機は、ヨーロッパの金融機関を直撃した。2009 年に入っても、欧州銀行大手の経営悪化やユーロ相場の下落といったニュースが目立つ。ユーロ圏金融危機の特徴は、欧州の銀行が対アメリカ向けの対域外資金フローを増加させ、域外顧客向け資産が不良化したことである。単一通貨圏を既に形成した段階において、EU の銀行監督問題、EU 通貨当局のプルーデンス政策、ユーロシステムのガバナンス等の問題が改めてクローズアップされている。今度の研究大会で会員の方々の活発な議論を期待したい。

今後も、会員の方からのユニークな寄稿をお願い致します。

日本 EU 学会ニュースレター 第 22 号

(2009 年 2 月 9 日発行)

発行 行 日本 EU 学会 広報委員会

発行責任者 岩田健治

九州大学経済学部

〒812-8581

福岡市東区箱崎 6-9-1

TEL&FAX : 092-642-4451

E-mail : iwata@en.kyushu-u.ac.jp

編集責任者 松浦一悦

松山大学経済学部

日本 EU 学会事務局

同志社大学法学部 鷲江義勝研究室内

〒602-8580

京都市上京区今出川通

烏丸東入玄武町 601

TEL&FAX : 075-251-3620

ywashie@mail.doshisha.ac.jp

(日本 EU 学会 HP アドレス)

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/eusa-japan/index.html>